

寄贈図書リスト

続 間違いだらけの物理概念, パリティ編集委員会 編, 丸善, 解説書, 四六判, 162 p, 1236 円

タイムマシン

ワームホールで時間旅行, Paul Halpern 著, 江里口良治 訳, 丸善, 読み物, 四六判, 248 p, 1854 円

月報だより

会務案内

天文月報海外速送サービス

海外在住会員の方が天文月報を速く入手できるように, SAL 便の取扱サービスを有料で行っております。ご希望の方は下記の要領にしたがってお申し込み下さい。

1. サービス料金: 1年間 2400 円。年会費と併せて 1 年ごとに納入して下さい。
2. 申し込み: 原則として年 1 回(4 月期のみ)受け付けとします。締切前に学会へ届くように, 送付先・氏名・会員番号を明記の上, 書面でお申し込み下さい。書式は問いません。ただし, 会費納入後に渡航が決まった方のための便宜措置として, 10 月期を設けます。
4 月期 = 2 月末日までに次年度会費と併せて前納して下さい。
10 月期 = 7 月 31 日までにサービス料金を前納して下さい(会費既納のこと)。[これは, 年度途中で渡航が決まった方のみの経過措置サービスです。さらに継続を希望する場合は翌年の 4 月期に忘れずにお申し込み下さい。料金は 1200 円です。]
3. サービス期間: 1 年単位, 4 月号から発送します。10 月期の場合は 10 月号から半年間発送します。
4 月期 = 4 月号～次年 3 月号(例: 1995 年 1 月 31 日までに申し込んだ方は 1995 年 3 月 20 日発行の 4 月号～1996 年 2 月 20 日発行の 3 月号)に適用します。
10 月期 = 10 月号～次年 3 月号(例: 1995 年 7 月 31 日までに申し込んだ方は 1995 年 9 月 20 日発行の 10 月号～1996 年 2 月 20 日発行の 3 月号)に適用。
4. 更新: 申し込み締切までにご連絡のない場合は, 次期のサービスを打ち切り, 船便とします。自動更新はいたしません。
5. 清算: サービス期間途中で日本へ帰国するなどの理由でサービスを受ける必要がなくなった場合は, 帰国後にお申し出になった時点で送料の清算をいたします。送付先が変更になった場合は至急ご連絡下さい。
6. 問い合わせ: ご不明な点は学会事務室までお問い合わせ下さい。(本誌奥付参照)。

注 1. SAL 便では, 海外宛のパフレット・書類等は, 日本から約 2 週間で送られます。

- 注 2. SAL 便が取り扱われていない国については, 同一手続き・同一料金で航空便でお送りします。
- 注 3. SAL 便サービスの申し込みをされない方は従来どおり, 送料学会負担で船便送付とします。

(天文月報編集委員会, 会計理事)

会員会費の銀行自動引き落としを 申し込まれた方へ

日本天文学会では, 1994 年度から会員会費および春秋年会の関連経費の銀行自動引き落とし処理をお受けしております。

現在, 申込み会員は 350 名ですが, その 10%位にトラブルが起きております。是非次のことにご留意下さるようお願いいたします。

I] 会員会費について

- 1) 会員会費は毎年 4 月 10 日に引き落とすようにしておりましたが, 来年度(1996)会費から 2 月 10 日(土, 日の場合は次の月曜日。祝祭日の場合はその翌日)に, 引き落とすことにさせていただきますので, ご了承下さい。通帳には, 「JCB」「JCB ローン」「JCB テンモンガ」のいずれかの名前で記入されます。
- 2) 学生 = 特別会員の方は 1 月 10 日までに新年度(4 月以降)の学生申請書をご提出下さい。未提出の場合は一般の特別会員としての会費を引き落させていただきます。なお, 4 月以降ご就職された場合はその時にご連絡下さい。
- 3) 「銀行自動引落」の際, 口座が資金不足である。或は口座名・口座番号が異なる等の異常があると引き落とされませんので, 1 月末日までに登録口座の残高等をお確かめおき下さい。
- 4) また口座名を変更される方は 1 月 10 日までにご連絡下さい。変更連絡がありませんと振替不能となり, 金融機関への問い合わせ・会員への連絡等で無駄な 1～2 ヶ月を費やすこととなります。是非事前のご連絡をお願いいたします。
- 5) 引き落とし不能の連絡がきた会員には, 理由を付して事務処理方法をご連絡いたしますので, それに従って会費を納入して下さい。金融機関側を含めた事務処理上のミスもないとは言えませんが, その場合は当方で調査いたしますので, 引き落とし日が 1～2 ヶ月後となります。
- 6) 自動引落の申込をしている方の中には, さらに干振

替等で送金される方がおられます。それを避けるために、1996年度会費から自動引落は自動的に毎年2月10日に引き落とすようにさせていただきますので、是非お確かめの上会費の二重納入をされないようお願いいたします。銀行自動引落の申し込みをしたかどうか自信のない方は遠慮なく天文学会までお問い合わせ下さい。もし二重納入をされますと、 π 振替等の分を翌年分とせざるを得なくなり、年会関連経費その他の銀行自動引落の申込がない限り、その方の次回の引き落としは24ヶ月後になります。

(13ヶ月以上取引のない場合は、金融機関は登録を抹消してもよいことになっているため、その場合は振替不能となる怖れがあります)

II] 春秋年会の関連経費について

1) その年度の会員会費の銀行自動引落名簿を基本としておりますので、これに載ってない方は年会関連経費の引き落としができない場合があります。

《I] 6), () 参照》

2) 年会毎の関連経費は、申込金額が年会毎に異なる方がおられますので、年会の都度お申込いただくことにしております。常に一定額の申込をされている方もお手数ですがその都度お申込下さるようお願いいたします。

3) 会員会費を銀行自動引落とされた方の中には、関連経費も自動的に引き落とされていると思われた方もいるようですが、お申込がなければ引き落としませんのでご承知おき下さい。

(関連経費の申込控えはとっておきますので、ご不審の際は学会事務室にお問い合わせ下さい)

4) 年会関連経費には、参加費、講演登録料、予稿集代金の引き落としが選択できるようになっています。年会会場での受付の際、ご自分でどの項目を申し込まれたのか不明の方は、係にお確かめ下さい。

III] そ の 他

「銀行自動引き落とし」後の会員各位への領収書発行については、現在の学会事務室の設備・室面積および常勤職員1名のマンパワーではそこまでの処理能力がありません。諸条件が揃うまで暫くご猶予下さい。

以上

(天文学会事務室)

名簿訂正について

平成7年の会員名簿(1月15日現在)は、5月下旬に皆様のお手元に届いていると思いますが、誤植、脱字等がありましたら、7月31日(月)必着で天文学会事務室までお知らせ下さい。

天文月報に名簿訂正を掲載したいと思います。

7月31日までの新会員の方も同時に補充掲載させて

いただきますが、その後の訂正・補充は暫く見合わせますのでご諒承下さい。

人事公募

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1)所属部門・所属講座, (2)勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1)着任時期, (2)任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1)提出先, (2)問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

名古屋大学太陽地球環境研究所教官公募

1. 助手1名
2. (1) 太陽圏環境部門
(2) 豊川市
3. 惑星間空間物理学の観測的研究。
4. 当研究部門では、惑星間空間シンチレーションを利用した太陽風の観測、太陽中性子の観測、宇宙線変動観測、宇宙ガンマ線の研究等を行っています。今回の公募では、太陽風の観測プロジェクトに参加し、現研究スタッフや技術スタッフと協力して、太陽風及びその関連する領域の研究を推進できる意欲的な方を希望します。
5. 決定後できるだけ早い時期。
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上の人。
7. 履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文刷り、研究計画書。

自薦の場合は、本人についての意見を述べられる方2人の氏名と連絡先、他薦の場合は2人からの推薦書。

8. 平成7年7月31日(月)
9. (1) 〒442 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
所長 國分 征
Tel 05338-9-5182
Fax 05338-4-8806
(2) 同研究所 國分 征 Tel 05338-9-5182
小島正宜 Tel 05338-9-5175

11. 選考方法

名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選

考に基づき、同運営協議会の意見を求めて同教授会で決定します。なお、該当者がいない場合は決定を保留します。

京都大学理学部附属天文台教員

1. 教授 1名
2. (2) 飛驒天文台 岐阜県吉城郡上宝村蔵柱
3. 太陽物理学
4. ドームレス太陽望遠鏡による観測的研究の推進及び天文台運営
(理学研究科・物理学宇宙物理学専攻・宇宙物理学天文学分野担当)
5. (1) 決定後できるだけ早い時期
7. 履歴書, 発表論文リスト, 主要論文別刷, 研究計画書, 着任可能時期
8. 1995年8月7日(月)必着
9. (1) 〒606-01 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部天文台分室
台長 牧田 貢
- (2) 〒607 京都市山科区北花山大峰町
京都大学花山天文台
牧田 貢
電話 075-581-1235
10. 封筒に「理学部附属天文台教授応募書類在中」と朱書きし, 簡易書留で送付のこと。

大阪大学理学部宇宙地球科学科教員

下記の要領により教官の公募を行いますので、広く意欲ある人の応募を求めます。

1. 助手 1名
2. 宇宙地球科学専攻 基礎宇宙学講座
3. 観測的 X 線天体物理学
4. 飛翔体を用いた X 線天文学の観測的研究並びに新しい測定技術開発を行っている。測定技術開発の重点は、次期 X 線天文衛星に搭載予定の X 線 CCD カメラの開発である。観測的研究のみならず、検出器開発を念頭においた各種実験遂行に十分な能力もしくは意欲のある人を求める。これまでの経験や専門は問わない。当該部門には、現在、常深 博教授、北本俊二助教授、林田 清助手が在職しているので、協力して研究を遂行していけることが必要。
5. 決定後なるべく早い時期
- 6.
7. (1) 略歴 (2) 研究歴及びその概要 (3) 論文リスト及び主要論文別刷り (3 編以内) (4) 今後の研究計画と抱負 (各々 A4 で 2 枚以内) (5) 意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先

8. 1995年8月28日(月)必着
9. (1) 〒560 大阪府豊中市待兼山町1-1
大阪大学理学部宇宙地球科学科 池内 了
- (2) 〒560 大阪府豊中市待兼山町1-1
大阪大学理学部宇宙地球科学科 常深 博
電話 06-850-5477
ファックス 06-850-5539
e-mail tsunemi@ess.sci.osaka-u.ac.jp
10. 封筒の表に「基礎宇宙学講座助手公募書類在中」と朱書きし, 書留で郵送のこと。

東北大学理学研究科天文学専攻教員

1. 助手 2名
2. (1) 東北大学大学院理学研究科 天文学専攻
- (2) 仙台市
3. 天文学
4. 東北大学大学院理学研究科および理学部における研究と教育
(大学院理学研究科天文学専攻および理学部宇宙地球物理学科を担当)
5. (1) 決定後なるべく早い時期
7. ①履歴書, ②これまでの研究の概要と今後の抱負, ③論文リスト, ④主要論文別刷り (5 編以内)
8. 1995年8月31日(木)必着
9. (1), (2) 〒980-77 仙台市青葉区
東北大学理学部天文学教室 主任 土佐 誠
電話: (022)-217-6501 FAX: (022)-217-6513
10. 応募書類は簡易書留で送付のこと

東京都立大学理学部物理学教室

1. 助手 1名
2. (1)宇宙物理理論研究室
3. 宇宙物理学理論
5. (1)決定後できるだけ早い時期
6. 博士の学位を有する人またはそれと同等の力を有する人
7. ○履歴書○業績リスト○現在までの研究概要 (2000字以内)○研究計画 (2000字以内)○主要論文別刷 (5編以内)○推薦書または意見書 1通 (健康に関する所見を含む)
8. 1995年8月18日(金)必着
9. (1)〒192-03 東京都八王子市南大沢1-1
東京都立大学理学部物理学教室主任 岡部 豊
電話 0426-77-1111 内線 3367
- (2)同教室 高原文郎 電話 0426-77-1111
内線 3348
E-mail takahara@phys.metro-u.ac.jp

10. 「宇宙物理理論助手応募書類」と朱書し、書留で郵送のこと
11. 東京都の給与体系による

京都大学総合人間学部基礎科学科教官

1. 教授または助教授 1 名
2. 基礎科学科自然構造基礎論講座
3. 宇宙物理学理論
4. 総合人間学部での宇宙物理学(理論)に関する講義・演習・輪講と全学部 1・2 年生向けの物理学の講義および本学大学院人間・環境学研究科の自然構造基礎分野(宇宙物理学理論に関する授業科目)を担当して頂く。
5. (1) 1996 年 4 月 1 日を予定
7. ○履歴書 ○研究歴 ○業績リスト ○応募する職名 ○主要論文 10 編以内の別刷各 2 部 ○今後の研究計画 ○連絡先・電話番号
8. 1995 年 9 月 29 日(金)必着
9. (1) 606-01 京都市左京区吉田二本松町
京都大学総合人間学部長 児嶋眞平
(2) 606-01 京都市左京区吉田二本松町
京都大学総合人間学部基礎科学科
自然構造基礎論講座主任 植松恒夫
電話 075-753-6789
10. 「宇宙物理学理論応募書類在中」と表記し、簡易書留で送付のこと。

広島大学理学部助手(物理学科)公募

1. 助手 1 名
2. (1) 核理論・宇宙物理学研究室
3. 宇宙物理学(理論)
5. (1) 決定後なるべく早い時期
7. 履歴書, 業績リスト, 主要論文 3 編別刷りまたはコピー, 着任後の研究計画, 意見を聞ける方 2 名の連絡先
8. 1995 年 8 月 31 日
9. (1) 〒739 東広島市鏡山 1 丁目 3 番
広島大学理学部 物理学科長 藤田敏三
(2) 広島大学理学部物理学科
小嶋康史 0824-21-7365
kojima@theo.phys.sci.hiroshima-u.ac.jp
10. その他, 公募書類在中と朱書きのこと

共同利用・共同研究

NRO 45 m 電波望遠鏡

第 XIV 期共同利用観測プログラム公募

野辺山宇宙電波観測所
所長 石黒 正人

45 m 鏡電波望遠鏡の第 XIV 期共同利用を以下の予定で行います。

1. 実施期間: 1995 年 12 月より 1996 年 5 月まで(前期および後期)
2. 装置の状況: 第 XIV 期ステータスレポート参照
3. 観測プログラム申込(注): 所定の用紙を用い 8 部(レフェリー 7 名+NRO 共同利用事務 1 部), (野辺山宇宙電波観測所共同利用係にあり) 長期共同利用は 13 部(レフェリー 5 名+プログラム小委 8 名) 作成の上, NRO へ送付のこと。

後期締切: 1995 年 10 月 23 日(月) 15 時

(主に 1996 年 2 月~5 月にスケジュール)

4. 申込先: 〒384-13
長野県南佐久郡南牧村野辺山
野辺山宇宙電波観測所 共同利用係 宛
電話 0267-98-4386
封筒に「共同利用プロポーザル在中」と朱記のこと。
(質問等も共同利用係関口妙子まで, taeko@nro.nao.ac.jp)
5. 審査法: レフェリーによる審査を経て, プログラム小委員会が調整, 採否を決定します。なお, 長期共同利用に関してはステータスレポート参照のこと。
6. 観測時間の割当: プログラム小委員会が採択したプログラムについて, NRO が時間を割り当て, 研究代表者に通知します(前期の採否通知は 8 月下旬の予定)。
(注 1) 観測者の様々な要求やレフェリー制度変更に対応し, またプロポーザル評価や観測スケジュール調整作業を容易に行えるように, 観測申し込み用紙を一昨年全面改訂しました。同封の新しい応募用紙を使ってください。各プロポーザルに対するレフェリー人数は 7 人に増えています。これに伴って各レフェリーには以前にもまして負担が大きくなります。従って, 観測の目的・意義などを書く別紙は, 一般共同利用では 2 枚以内に, 長期共同利用では 4 枚に制限します(図表を含む)。これらが満足されていない時は, 不採択の理由となる場合があります。

野辺山ミリ波干渉計共同利用観測プログラム公募

野辺山ミリ波干渉計の第 IX 期共同利用を以下の予定で行います。

1. 実施時期: 1995 年 12 月~1996 年 2 月
2. 観測プログラム申し込み(注 1): 所定の用紙を用い 8 部作成の上(注 2), 野辺山宇宙電波観測所へ送付のこと。

締切: 1995 年 7 月 3 日(月) 15 時。

注 1: 野辺山宇宙電波観測所必着のこと。FAX は原則

として受理しません。

注2：観測の目的・意義などを書く別紙は、A4版2ページ以内に制限します(図表を含む)。これが満足されないときは、不採択の理由になる場合があります。

3. 申込先：

〒384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山
野辺山宇宙電波観測所共同利用係 宛
Tel: 0267-98-4386

封筒に「共同利用プロポーザル在中」と朱記のこと。
(用紙の請求・質問等も共同利用係関口妙子まで、
taeko@nro.nao.ac.jp。技術的な質問については森田耕
一郎まで、morita@nro.nao.ac.jp.)

4. 審査法：レフェリーによる審査を経て、プログラム
小委員会が調整、採否を決定します。

5. 観測時間の割当：プログラム小委員会が採択したプ
ログラムについて観測所が時間を割り当て、10月上旬
までに研究代表者に通知します。

その他、詳しくはステータスレポートを御参照下さい。
国立天文台 野辺山宇宙電波観測所
所長 石黒正人

研究会・集案案内

電波天文台特別公開のお知らせ

国立天文台 野辺山
電波天文学研究系
野辺山宇宙電波観測所
野辺山太陽電波観測所

当観測所では、天文知識の普及と観測所の仕事を広く
知って頂くため、下記の要領で観測所の諸設備を一般の
方々に公開いたしますので、ご案内申し上げます。

1. 日 時 1995年9月23日(土・祝) 午前10時から
午後4時半まで

2. 内 容

(1) 見 学 通常の見学コースの他、45m望遠鏡の観
測室、10m6素子干渉計の観測室、電波ヘリオグラ
フの観測室、観測データを処理する計算機を見学で
きます。

(2) 展 示 宇宙からやってくる電波をとらえる観測
装置の仕組や、最近の観測結果を展示します。

(3) 講 演 中野 武宣「第二の地球を見つけよう」
中井 直正「巨大ブラックホールが見つかった」

(4) その他 質問コーナ等

3. 交 通

鉄道 JR小海線・野辺山駅下車 徒歩25分

車 東京方面から

中央道・須玉インターより国道141号を清

里方面約40分

名古屋方面から

中央道・小淵沢インターより八ヶ岳有料道
路・国道141号を経て約40分

☆ なお、観測所内には食堂はありませんので御承知お
き下さい。また、恐縮ですが、上履き(スリッパ等)
を各自ご持参下さい。

☆ 入場無料です。

問い合わせ先

〒384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山
国立天文台 野辺山

電話：0267-98-4300(代表)

(担当) 佐藤直久, 中島弘, Vila-Vilaro, B.

木曾観測所夏の特別公開のお知らせ

1. 日時 8月5日(土) 13時～16時
19時～22時 天体観望会

8月6日(日) 10時～16時

2. 内容 シュミット望遠鏡のデモンストレーション
天体写真の展示及び販売

研究活動の紹介

質問コーナーの開設

天体観望会(5日のみ)

3. 交通その他 JR中央西線木曾福島駅あるいは上松
駅より車で30分

観測所から6kmの所までバスの便あり(ただし1日
数本)また、食堂、売店はありません。

4. 場所・連絡先

〒397-01 長野県木曾郡三岳村10762-30

東京大学理学部天文学教育研究センター木曾観測所

電話 0264-52-3360

FAX 0264-52-3361

第5回重力波天文学シンポジウム

主催 文部省科学研究費重点領域研究
「重力波天文学」総括班

日時 1995年8月28日(月)～29日(火)

場所 東京大学山上会館

(〒113 文京区本郷7-3-1)

内容 重点領域研究成果取りまとめ

連絡先 京都大学基礎物理学研究所 中村卓史

(〒606-01 京都市左京区北白川追分町)

電話 075-753-7022 FAX 075-753-7010

E-mail: Takashi@JPNYITP.yukawa.kyoto-u.
ac.jp

星空を守る会全国大会のお知らせ

一昨年(1994)の第1回星空を守る会(会長:古在由秀)全国大会につづいて2度目の集会在岐阜市で開催されることになりました。昨年度環境庁で行われた光害に関する環境モニターアンケートの結果をもとに、今年度より本格的に光害に関する調査が行われます。今後の日本における光害の取り組みの重要な転換点になるかもしれない会により多くの方々の参加をお願いします。

日時:1995年9月9日13時~9月10日12時

会場:岐阜市・岐山会館

参加費 会合参加費2日目とも 1500円

懇親会 5000円

宿泊費(多人数部屋) 4000円

翌日朝食 700円

参加費は当日徴収します。ただし宿泊の7日前より当日までのキャンセルはキャンセル料を頂きます。

問い合わせ・星空を守る会 大友 哲

☎0551-48-3822

東アジア天文学会議「アジアにおける地上天文学」

共催:日本学術会議天文学研究連絡委員会, 日本天文学会, 国立天文台

日本, 韓国, 中国, 台湾, ベトナム, タイ, インドなど東アジア各国の天文学研究者約150人が集い, アジア地域における天文学研究の状況と成果を報告し, 観測装置・天文台の建設など今後の研究の発展と協力の可能性を話し合うはじめてのシンポジウムです。口頭発表およびポスター発表多数。関心をお持ちの方の参加を歓迎します。

●日時:7月18日(火)~20日(木) 9:00~18:00

●場所:国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区代々木神園町) 国際交流棟

- 内容:1. 東アジア各国における天文学の状況
- 2. 地上観測装置による天文学の成果
- 3. 地上望遠鏡と観測装置の開発, 建設, および計画
- 4. 地上観測サイトの探査, 測定, 開発
- 5. アジア地域における研究協力の報告, 提案, およびその将来

●参加費:1万円

○17日(月)は18時より受付と歓迎集会有ります。

○21日(金)は野辺山電波観測所日帰りツアーを実施します。

●問い合わせ先:国立天文台 すばるプロジェクト室 海部・林(正)

郵便番号181 三鷹市大沢2-21-1 国立天文台

TEL 0422-34-3610

FAX 0422-34-3608

E-MAIL eama@optic.mtk.nao.ac.jp

1995年度講習会

『ニュートリノと重力波 ー実験室と宇宙を結ぶ新しいメディアー』

期日 東京:1995年8月1日(火)~3日(木)

大阪:1995年8月7日(月)~9日(水)

会場 東京:野口英世記念会館ホール(東京都新宿区大京町26 TEL 03-3357-0742)

大阪:千里ライフサイエンスセンター(大阪府豊中市千里東町1-4-2 TEL 06-873-2010)

日程および講義題目 講師

第1日<東京8月1日(火)><大阪8月7日(月)>

(T=東京会場, O=大阪会場)

9:30-11:00	素粒子としてのニュートリノ	益川敏英 ^T	(京大理学部)
11:00-12:30	ニュートリノと大統一理論	柳田 勉 ^T	(東大理学部)
14:00-15:30	ニュートリノと原子核	江尻宏泰 ^T	(阪大核理研)
15:30-17:00	加速器でニュートリノの性質を 探る	丹羽公雄 ^T	(名大理学部)

第2日<東京8月2日(水)><大阪8月8日(火)>

9:30-11:00	太陽ニュートリノはどこへ消えたか?	中村健蔵 ^T	(高エネルギー研)
11:00-12:30	神岡の地下で探るニュートリノの正体	戸塚洋二 ^T	(東大宇宙線研)
		鈴木厚人 ^O	(東北大理学部)
14:00-15:30	ニュートリノと宇宙の暗黒物質	須藤 靖 ^T	(東大理学部)
		池内 了 ^O	(阪大理学部)
15:30-17:00	宇宙論とニュートリノの諸問題	吉村太彦 ^T	(東北大理学部)
		佐藤文隆 ^O	(京大理学部)

第3日<東京8月3日(木)><大阪8月9日(水)>

9:30-11:00	重力波の理論的側面	中村卓史 ^T	(京大基礎物理研)
		大原謙一 ^O	(新潟大理)
11:00-12:30	重力波を捉える試み	坪野公夫 ^T	(東大理学部)
		黒田和明 ^O	(東大宇宙線研)

研究助成

日本IBM科学賞について

日本天文学会に標記の案内がきております。その概要をお知らせしますので、詳細は当会までご連絡下さい。なお、当会に於ける応募締切は7月17日(月)必着です。

名 称: 日本IBM科学賞

目 的: わが国における基礎研究の振興と若手研究者の育成

候補者資格: 1) 国内の大学あるいは公的研究機関に所属し, その研究活動の分野が, つぎのような領域に該当する基礎研究者(国籍は問わない)

(1)物理

(2)化学

(3)コンピューターサイエンス

(4)エレクトロニクス

2)平成7年8月15日現在満45歳以下であること

受賞人数：6名(6件)

推薦方法：国内の大学あるいは公的研究機関等に所属されている方の推薦

選考：審査委員会により決定する

賞金：300万円(1件)

発表：推薦者を通じて通知(10月上旬予定)

審査委員会：

委員長	福井謙一	基礎化学研究所 所長
委員	猪瀬博	文部省学術情報センター 所長
	江崎玲於奈	筑波大学 学長
	後藤英一	東京大学 名誉教授
		神奈川大学 教授
	近藤次郎	前 日本学術会議 会長

第3回日産科学賞候補者推薦について

上記の推薦依頼が天文学会にきておりますのでお知らせ致します。

日産科学賞候補者推薦要領

1. 趣旨

若手・中堅の研究者で、特に顕著な業績にたいして表彰し、励ましとさらに研究の発展を期待して支援をする。

2. 推薦基準

自然科学分野(人文・社会科学分野との複合領域を含む)で、下記により学術文化の向上発展に大きな貢献をした満50歳未満(平成8年3月末時点)の公的研究機関に所属する研究者とします。

a)学術研究上重要な発見をした

b)新しい研究分野を開拓した

※45歳以下で上記基準に該当する方がおられる場合は、優先的にご配慮願います。

3. 推薦者：貴学協会の代表者

4. 推薦依頼数：1名

5. 賞の内容：正賞……症状、メダル

副賞……研究奨励金500万円(受賞者の研究のための助成金)

6. 推薦手続：所定の用紙に必要事項を記入し、天文学会に提出して下さい。

7. 学会締切：平成7年7月31日(月)

8. 問い合わせ：日本天文学会

日本証券奨学財団 平成7年度研究調査助成募集

標記助成金の募集要項が、学会宛に届いております。対象者は、大学に於て学術文化の研究調査に従事してい

る個人又はグループで、研究者は55歳以下ですが、グループ代表者は55歳以下とは限りません。

理学・工学については、新素材及び環境改善に関する萌芽的研究を重視することです。

◎助成金総額：6,000万円

1件につき100万円程度で、多額の経費を必要とする特別研究調査は、300万円以内。

◎申込締切：天文学会での受付は7月19日までとします。

平成7年度(第12回)井上学術賞候補者募集

井上科学振興財団より本会あて下記要項で推薦依頼がありました。希望者は天文学会までご連絡下さい(学会締切は8月21日(月))

1. 候補者の対称

自然科学の基礎的研究で業績が特に顕著なもの。ただし、研究者の年齢が平成7年9月20日現在で満50歳未満のものに限る。

2. 学術賞

賞状・メダル及び副賞200万円、5件以内、受賞者は原則として1件について一人とします。特に複数であることを必要とするときは、それらの研究者の寄与が同等であることを示してください。ただしその場合も1件とする。

3. 学会からの推薦件数は1件です。

4. 贈呈期日は平成8年2月2日(金)の予定。

1995年度朝日賞候補者の推薦について

朝日新聞文化財団より標記の依頼がきております。

推薦票は天文学会にあります。自選他薦を問いませんので天文学会までご連絡下さい。

1. 候補者の対象

わが国のさまざまな分野で業績をあげ、文化・社会の向上に貢献された個人または団体。

2. 天文学会からの推薦は1件です。

3. 天文学会の締切は、1995年8月10日(休)。

4. 発表は、1996年元日の朝日新聞紙上。

天文学振興財団研究助成決定のお知らせ

平成7年度天文学振興財団研究助成選考委員会での慎重審議の結果、下記のように決定いたしました。

氏名 土橋 一仁(大阪府立大学総合科学部・助手)
研究課題 「孤立した赤外線点源の起源を探る：星はどこで生まれているか？」

助成金額 100万円

天文学振興財団
理事長 古在由秀